2018年1月17日
株式会社リクルートホールディングス

20世紀の日本のグラフィックデザイン史を概観

『グラフィズム断章ーもうひとつのデザイン史』展開催

株式会社リクルートホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長 兼 CEO：峰岸真澄）が運営するギャラリー「クリエイションギャラリーG8」（http://rcc.recruit.co.jp/）では、2018年1月23日(火)から2月22日(木)の期間、『グラフィズム断章ーもうひとつのデザイン史』展を開催いたします。

『グラフィズム断章ーもうひとつのデザイン史』展について

日本のグラフィックデザインは明治以降の近代化および戦後の経済成長を経て大きく発展を遂げてきました。戦前のモダニズム、戦後復興と高度経済成長、情報社会の到来といった動向を通じて日本のグラフィックデザイナーは社会のなかに「デザイン」という領域を確立し、高い品質と独自の美学によって産業や文化の発展に寄与してきました。

しかし、20世紀末からの本格的なグローバル時代の到来とともに、世界のデザイン潮流は大きく変化しつつあります。デジタルツールが専門家だけの領域であったデザインの実践を広く人々に開放し、また経済的な「先進国」が特権的に享受していたデザインの方法や素材は誰にでも、どこからでもアクセスできるものとなりました。

このような変化のなかで日本のグラフィックデザインは、今後どのような方向に向かうのでしょうか。あるいはどのような可能性へと開かれているのでしょうか。

この問題について考えるためには、歴史への意識が不可欠です。日本のグラフィックデザイン文化は、20世紀を通じて西洋のデザイン文化とは異なる独自の美学や方法を発展させてきました。21世紀を迎えた現在、その歩みは豊かな歴史的源泉となっています。

そこで本展は1953年から半世紀以上にわたって国内外のグラフィックデザインの最前線を追いかけてきた雑誌『アイデア』（誠文堂新光社）を手がかりに、現代グラフィックの第一線で活躍するデザイナーたちがそれぞれの視点から20世紀日本のグラフィックデザイン史を概観、注目されるべきと考える作品や人物、出来事を提示するものです。

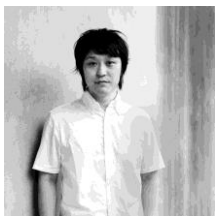
また、会場には『アイデア』の総バックナンバーをはじめ、47組のデザイナーたちが幅広い年代から選書したデザイン関連書ライブラリを併設。貴重な書物を実際に手に取ることで、これからのデザインを考えるための視点を探ることができます。

日本の20世紀デザインを単なる回顧から批評的な解釈へと開いていく新しい試みとなります。ここで取り上げるもうひとつのデザイン史を通して、現代、そして未来のグラフィックデザインをともに考える場になればと考えています。

開催概要

■企画展名　『グラフィズム断章ーもうひとつのデザイン史』展
■会期　2018年1月23日(火)～2月22日(木)
11:00～19:00　日曜・祝日休館　入場無料
■主催・会場　クリエイションギャラリーG8
〒104-8001　東京都中央区銀座8-4-17　リクルートGINZA8ビル1階
TEL 03-6835-2260　http://rcc.recruit.co.jp/
■主催　クリエイションギャラリーG8
■企画　室賀清徳、後藤哲也、アイデア編集部
■構成　橋詰 宗、加藤賢策、大原大次郎
■参加デザイナー
大西隆介、大原大次郎、加藤賢策、川名 潤、菊地敦己、髙田 唯、田中義久、田中良治、千原 航、長嶋りかこ
中野豪雄、橋詰 宗、前田晃伸（50音順）
■選書ライブラリ参加デザイナー
smbetsmb、阿部宏史、有馬トモユキ、飯田将平、色部義昭、上西祐理、岡澤理奈、岡本 健、小熊千佳子
尾中俊介、尾原史和、加瀬 透、刈谷悠三、川村格夫、木村稔将、木村浩康、熊谷彰博、後藤哲也、近藤 聡
佐々木 俊、佐藤亜沙美、庄野祐輔、鈴木哲生、須山悠里、惣田紗希、染谷洋平、髙木稔子、田中千絵、田中雄一郎
田部井美奈、近田 火日輝、戸塚泰雄、長田年伸、仲村健太郎、ニコール・シュミット、原田祐馬、樋口 歩
藤田祐美、牧 寿次郎、三澤 遥、水戸部 功、村上雅士、安田昂弘、山田和寛、山野英之、山本晃士ロバート
米山菜津子（50音順）
■出版情報　本展の内容は2018年6月発売の『アイデア No.382』に特集される予定です。

参加デザイナー



大西隆介　Takasuke Onishi
1976年埼玉県生まれ。法学部を経て、多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。2009年、『 direction Q 』開始。ブランドイメージの設計から運用に至るまでのトータルディレクションを手がける一方、文化・芸術関連の支援や人間の創造力に迫るプロジェクト『 iruinai（イルイナイ） 』としての活動も行う。長岡造形大学、ミームデザイン学校講師。

大原大次郎　Daijiro Ohara
1978年神奈川県生まれ。デザインワークのほか、展覧会やワークショップを通して言葉と文字の知覚を探るプロジェクトを多数展開する。近年のプロジェクトには、重力を主題としたモビールのタイポグラフィ『もじゅうりょく』、山岳写真と登山図を再構築したグラフィック連作『稜線』、発声と書字のパフォーマンス『 TypogRAPy 』など。受賞にJAGDA新人賞、東京TDC賞。

加藤賢策　Kensaku Kato
1975年埼玉県生まれ。株式会社ラボラトリーズ代表。グラフィックデザイン、ブックデザイン、ウェブデザイン、サインデザインなどを手がける。おもな領域はアートや建築、思想、ファッションなど。

川名 潤　Jun Kawana
1976年千葉県生まれ。プリグラフィックスを経て2017年『川名潤装丁事務所』設立。多数の書籍装丁、雑誌のエディトリアル・デザインを手がける。

菊地敦己　Atsuki Kikuchi
1974年東京都生まれ。武蔵野美術大学彫刻学科中退。ミナ ペルホネン（95-04）、サリー・スコット（02-）のアートディレクション、青森県立美術館（06-）、大宮前体育館（14）のVIサイン計画、『「旬」がまるごと』（07-12）や『装苑』（13）、『日経回廊』（15-16）などの雑誌や書籍のブックデザイン、『亀の子スポンジ』のパッケージデザインのほか、美術、建築、ファッション、工芸に関わる仕事が多い。また、ブックレーベル『 BOOK PEAK 』を主宰し、アートブックの出版を行う。

髙田 唯　Yui Takada
1980年東京都生まれ。株式会社Allright取締役。桑沢デザイン研究所卒業。
2006年デザイン事務所『Alright Graphics』設立。07年活版印刷工房『Alright Printing』設立。17年音楽レーベル『AlrightMusic』設立。東京造形大学准教授。

田中義久　Yoshihisa Tanaka
1980年静岡県生まれ。武蔵野美術大学空間演出デザイン科卒業。東京都写真美術館をはじめ、コマーシャルギャラリーのVI計画、『 Art Book Fair 』、『 Art Fair Tokyo 』、『 Daikanyama Photo Fair 』などのアートディレクションを手がける。また、アーティストの作品集の装丁、デザインも定期的に継続している。飯田竜太（彫刻家）とのアーティストデュオ『 Nerhol 』としても活動中。

田中良治　Ryoji Tanaka
1975年三重県生まれ。同志社大学工学部／岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー卒業。2003年に『セミトランスペアレント・デザイン』設立。ウェブサイトの企画・制作から作品展示までを行う。おもな活動に『 tFont/fTime 』（YCAM）、「セミトラ」展（クリエイションギャラリーG8）、「退屈」展（ggg）や「光るグラフィック」展（クリエイションギャラリーG8）の企画がある。15年にJAGDA新人賞受賞。

参加デザイナー

千原 航　Koh Chihara
1971年東京都生まれ。96年多摩美術大学美術学部二部デザイン学科卒。在学中の95年より（株）立花ハジメデザイン勤務。98年独立。2003年「BICHA-BICHA EXHIBITION」（GAS SHOP）。05年朗文堂タイポグラフィスクール『新宿私塾』第六期修了。07年-17年多摩美術大学造形表現学部非常勤講師として『妄想（演習）』、『現実（ゼミ）』担当。グラフィックデザインを軸にメディアや手法を問わず幅広く活動中。

長嶋りかこ　Rikako Nagashima
1980年茨城県生まれ。武蔵野美術大学卒業。2014年より『village®』主宰。既存の視点への問いや価値転換への気付きへの貢献を目指し、対象の思想の仲介となり知覚情報をデザインする。これまでの仕事に、“都市と自然”をテーマに掲げた坂本龍一氏による『札幌国際芸術祭2014』、全盲の主人公の映画製作を追うドキュメント映画『ナイトクルージング』、被災県の子供たちで編成された『東北ユースオーケストラ』、現代美術家宮島達男氏との核を問う共作『PEACE SHADOW PROJECT』などがある。

中野豪雄　Takeo Nakano
1977年東京都生まれ。武蔵野美術大学卒業。勝井デザイン事務所を経て、中野デザイン事務所代表。情報の構造化と文脈の可視化を主題に、さまざまな領域でグラフィックデザインの可能性を探る。日本タイポグラフィ年鑑グランプリ、造本装幀コンクール経済産業大臣賞等受賞。ラハティ国際ポスタービエンナーレ、モスクワ国際グラフィックデザインビエンナーレ等入選。国際タイポグラフィ・ビエンナーレ『タイポジャンチ・ソウル2011』に招待作家として出展。

橋詰 宗　So Hashizume
1978年広島県生まれ。武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（RCA）コミュニケーションアート＆デザイン修士課程修了。女子美術大学デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻非常勤講師。多領域のアートディレクション・グラフィックデザインを手がける一方、着目点と実践をテーマにした展覧会やワークショップの企画、教育プログラムの開発などを行う。

前田晃伸　Akinobu Maeda
1976年愛知県生まれ。デザインチーム『ILLDOZER』に参加。 解散後、アートディレクター／グラフィックデザイナーとして広告やカタログ、パッケージなどを中心に幅広く活動する。現在は『TOO MUCH MAGAZNE』や『POPEYE』のアートディレクターを務める。

【本件に関するお問い合わせ先】
https://www.recruit.jp/support/form/